イエスのことば　第 55 回

わたしは良い牧者です。良い牧者は羊たちのためにいのちを捨てます。（ヨハネ 10：11）

□文脈の確認

1. イエスの公生涯を起承転結の四部構成に分け、背景を理解ながら、イエスのことばを一つひとつ学んでいる。
2. 転の部、弟子訓練。十字架まで、1 年余。その前半の約 6 か月間において、イエスは、異邦人の地域へ 4 回、旅行した。異邦人地域への 4 回の旅行は、退避（リトリート）と休息の時であったと同時に、弟子たちの訓練を目的とした。
3. リトリートから帰ってきた後、**紀元 29 年秋 10 月の仮庵の祭りから冬 12 月の宮きよめの祭りまで、約 3 か月の間**に起きた出来事
   (1) 仮庵の祭りの前（ヨハネ 7：2～10、ルカ 9：51～56、マタイ 8：19～22）
   (2) 仮庵の祭りにおいて　　指導者層との衝突
      ① 仮庵の祭りでの衝突【全体的な流れ】（ヨハネ 7：11～52）
      ② 仮庵の祭りの期間中の個別的な衝突（ヨハネ 7：53～10：21）
         律法をめぐり、光をめぐり、メシアの神性をめぐり、
         生まれながらの盲人の癒やしをめぐり、「羊飼い」（メシア預言）をめぐり
   (3) 仮庵の祭りの後（ルカ 10：1～13：21）
   (4) 宮きよめの祭りにおいて（ヨハネ 10：22～39）

仮庵の祭りでの個別的衝突、「羊飼い」（メシア預言）をめぐり

ヨハネ 10 章

生まれながらの盲人の癒やしに続いての出来事

□アウトライン

A） 羊飼いのたとえ話（ヨハネ 10：1～6）

B） 門のたとえ話（ヨハネ 10：7～10）

C） 良い羊飼いのたとえ話（ヨハネ 10：11～18）

D） 聴衆の意見は分かれた（ヨハネ 10：19～21）・・・仮庵の祭りに関する記事の最後

A）羊飼いのたとえ話（ヨハネ 10：1～6）

1～2 節　「まことに、まことに、あなたがたに言います。羊たちの囲いに、門から入らず、ほかのところから乗り越えて来る者は、盗人であり強盗です。しかし、門から入るのは羊たちの牧者です。

- あなたがた＝パリサイ人たち（9：40）
- 羊たち＝イスラエルの真の信仰者たち、レムナント（残りの者たち）。ゼカリヤ書の「真の羊飼いが拒否されることの預言」（ゼカ 11：4～14）と関係する。詳しくは福岡集会の資料 2016 年 8 月 20 日「メシア的キリスト論/預言者/ゼカリヤの預言/二人の羊飼い①」を参照ください。
- 門＝モーセの律法
- ほかのところから乗り越えて来る者＝モーセの律法ではなく、自分たちで作った規則（言い伝え、口伝律法）や伝統を守ることで義人かどうかを判断する人たち、当時で言えば、ユダヤ教パリサイ派の指導者たち
- 羊たちの牧者＝メシア

3～5 節　門番は牧者のために門を開き、羊たちはその声を聞き分けます。牧者は自分の羊たちを、それぞれ名を呼んで連れ出します。羊たちをみな外に出すと、牧者はその先頭に立って行き、羊たちはついて行きます。彼の声を知っているからです。しかし、ほかの人には決してついて行かず、逃げて行きます。ほかの人たちの声は知らないからです。」

- 羊たちはついて行きます：羊たちのひとりが、生まれながら盲目であった人。パリサイ派の指導者たちの声を聞かず、イエスを信じた（9：38）

6 節　イエスはこの比喩を彼らに話されたが、彼らは、イエスが話されたことが何のことなのか、分からなかった。

- 彼ら＝パリサイ人たち（9：40）

B）門のたとえ話（ヨハネ 10：7～10）

7～8 節　そこで、再びイエスは言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしは羊たちの門です。わたしの前に来た者たちはみな、盗人であり強盗です。羊たちは彼らの言うことを聞きませんでした。

- 羊たち＝イスラエルの真の信仰者たち、レムナント（残りの者たち）
- わたしの前に来た者たち＝ユダヤ教パリサイ派、サドカイ派、律法学者。イスラエルの当時の指導者たち（ゼカ 11：8　「三人の牧者」）

9～10 節　わたしは門です。だれでも、わたしを通って入るなら救われます。また出たり入ったりして、牧草を見つけます。盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかなりません。わたしが来たのは、羊たちがいのちを得るため、それも豊かに得るためです。

- 出たり入ったりして、牧草を見つけます・・・イエスの門は、羊たちを拘束し、閉じこめるようなものではない。羊たちを自由にし、束縛や不安や恐れから解放するものである
- 豊かに得る・・・イエスは私たち信者の日々の必要を満たしてくださる

C）良い羊飼いのたとえ話（ヨハネ 10：11～18）

1.　良い羊飼いは、羊たちのためにいのちを捨てる（11～15 節）

11 節　わたしは良い牧者です。良い牧者は羊たちのためにいのちを捨てます。

12～13 節　牧者でない雇い人は、羊たちが自分のものではないので、狼が来るのを見ると、置き去りにして逃げてしまいます。それで、狼は羊たちを奪ったり散らしたりします。彼は雇い人で、羊たちのことを心にかけていないからです。

- 雇い人＝パリサイ人たち
- 羊たちのことを心にかけていない：パリサイ人たちは、生まれながらの盲人が物乞いしていても、憐れみもかけず、それどころか、本人か親が罪を犯したのだと人々に教えていた。イエスがその目を開けても、喜んだり、神をほめたたえたりすることもなく、むしろ「イエスは安息日を守らないのだから、神のもとから来た者ではない」と非難した。

14～15 節　わたしは良い牧者です。わたしはわたしのものを知っており、わたしのものは、わたしを知っています。ちょうど、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じです。また、わたしは羊たちのために自分のいのちを捨てます。

2.　イスラエル以外の羊たち、すなわち異邦人信者たちも起こされる（16 節）

16 節　わたしにはまた、この囲いに属さないほかの羊たちがいます。それらも、わたしは導かなければなりません。その羊たちはわたしの声に聞き従います。そして、一つの群れ、一人の牧者となるのです。

- この囲いに属さないほかの羊たち＝異邦人でイエスの信者となる人々
- 一つの群れとなる・・・ユダヤ人信者と異邦人信者が一つの群れとされる。それが、目に見えない普遍的教会である。このことは、新約聖書時代になって明らかにされた奥義のひとつである（エペソ 2：11～3：12）

3. イエスがいのちを捨てるのは父の命令であり、イエスは復活する（17～18 節）

17～18 節　**わたしが再びいのちを得るために自分のいのちを捨てるからこそ、父はわたしを愛してくださいます。だれも、わたしからいのちを取りません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしには、それを捨てる権威があり、再び得る権威があります。わたしはこの命令を、わたしの父から受けたのです。」**

- だれも、わたしからいのちを取りません・・・イエスの死の時を決めるのは、イエスご自身である

D）聴衆の意見は分かれた（ヨハネ 10：19～21）・・・仮庵の祭りに関する記事の最後

19 節　**これらのことばのために、ユダヤ人たちの間に再び分裂が生じた。**

- これらのことば・・・イエスが仮庵の祭りで語ったこと全体を指す。この箇所は、仮庵の祭りでの出来事についての記事の最後、まとめである。
- 再び分裂・・・7：43「群衆の間に分裂が生じた」の再びである。「ユダヤ人たち」はユダヤ地方の民衆を指す。分裂の割合は半々というより、イエスを拒否する数のほうが多くなったようである。次の 20 節には、「彼らのうちの多くの人が」とある。

20～21 節　**彼らのうちの多くの人が言った。「彼は悪霊につかれておかしくなっている。どうしてあなたがたは、彼の言うことを聞くのか。」ほかの者たちは言った。「これは悪霊につかれた人のことばではない。見えない人の目を開けることを、悪霊ができるというのか。」**

- 「彼は悪霊につかれておかしくなっている」・・・これは指導者層の見解そのもの。民衆レベルにまで浸透してきている。
- しかし、他方で、指導者層の見解に従うことをためらっている人たちがいた。イエスが語るのを聞くと、悪霊につかれた人のことばではないことは明らかであったし、生まれながらの盲目だった人が自分の目を開けてくれたのはイエスだと証言したことが大ニュースになっていたからであった。